

# 27th FEFCO

Forest Ecosystem Function Colloquium (FEFCO) は、地域や地球全体のレベルで森林生態系の機能とその持続的活用法を統合的に理解することを目的とし、研究者間の学術交流を推進します。

第27回森林生態系機能コロキウムは、京都大学名誉教授の菊澤喜八郎先生にご講演いただきます。どなたでも参加できますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。京都大学農学研究科森林生態学研究室と熱帯環境学研究室がホストを務めます。

27th FEFCO

2015/12/17 16:00 - 17:30

Faculty of Agriculture Main Building, S174

菊澤喜八郎（京都大学名誉教授）

葉寿命モデルの新しい展開

葉寿命は葉の基本的役割である光合成速度( $A_{max}$ )や面積当たり重量(LMA)と相関する重要なパラメータであるとともに、季節的環境においては常緑・落葉性といった相観をも決定する鍵形質である。葉寿命は個体あたりの光合成生産を最大化するように決定されるというモデル(Kikuzawa 1991)を展開することによって、1)開葉様式との関連を通じての冬芽、シュート、樹形との関連、2) $A_{max}$ やLMAとの相関(Onoda et al., unpublished)、3)機能的葉寿命概念の導入による生涯パフォーマンスへの展開、4)アロメトリー式の正規化定数への導入(Kikuzawa et al., 2013)および5)常緑性・落葉性の地理的分布(Kikuzawa, Onoda, et al., 2013)などに適用・展開できる。生涯パフォーマンスとしては葉の生涯光合成を通じての森林の余剰生産の推定の他に森林蒸散量の推定や葉の生涯被食量の推定などにも展開できる。今回はこのあたりを中心とし、余裕があれば4)、5)についても発表する。